# ブラジルの政治の歴史と歩み

220781181　水野伶皇

# はじめに

a) 2025年8月アメリカがブラジルに50%の関税

ア) ブラジル政府の試算では対米輸出の35%以上に影響

イ) ブラジルの主張：世界貿易機構の取り決めに米国が違反

b) ブラジル地理統計院が10月の消費者物価指数を発表

ア) 前年同月比で4.7%上昇

→5%以下は2025年1月以来

c) ブラジルの10月のインフレ率は前月比の0.1%

ア) 農作物を中心にインフレが減速傾向

d) 2025年12月砂糖の原料の粗糖の価格が下落

ア) 5年ぶりの安値水準

イ) ガソリンの価格が低下

↓

サトウキビ由来のバイオエタノールの需要低下

e) トウモロコシ由来のエタノールの生産増加

ア) 理由１：農業技術の向上

イ) 理由２：生産コストが安価

# 第1章ブラジルの歩み

## １節：ブラジルの概要

a ) ブラジルの国土

ア) ブラジルの面積 851.2万平方km

→日本の約22.5倍

イ) 熱帯気候および亜熱帯気候

亜熱帯気候でも冬季の降雪地域有

ウ) 年間の平均降水量は約1500ミリ

ｂ) 植民地時代の累計輸出額の半分以上が砂糖

→現在の主要産業は製造業・鉱業・農牧業

ｃ) 人口と言語

ア) 人口： 約2億1642万人

イ) インディオ(先住民)は大きく４つの言語系を使用

→下位集団は少なくとも４０以上の語族で構成

ウ) 人口増加の傾向

ｄ) 宗教：キリスト教

→約65%がカトリック

# ２節：ブラジルの独立と発展

a ) ブラジルの発見

ア)1500年ペードロ・アルヴァレス・カブラルが発見

イ)ブラジルの物産：パウ・ブラジルのみ

b ) カピタニア制

ア)広大なブラジルの海岸領土の警備が必須

→カピタニア制の誕生

イ)ブラジル領土を15の領土(カピタニア)に分割

それぞれを長官(カピタン)が統治

c ) ブラジルとポルトガル王国

ア)ポルトガル人の探検隊はサンパウロで金銀を探索

→1698年にミナスジェライス州で黄金を発見

イ)1729年には同じ金山でダイヤを発見

1760年にはミナスの黄金熱は終了

ウ)1808年1月28日ドン・ジョアンがブラジル開港を宣言

同年3月7日ポルトガル王室がリオデジャネイロに上陸

→リオデジャネイロを首都に決定

d ) ブラジルの独立

ア)きっかけ：ポルトガル軍にブラジル兵のみで勝利

イ)1822年9月7日ドン・ペードロが独立を宣言

↓

同年12月1日リオで戴冠式が開催

**ブラジル帝国の誕生**

# ３節：第２次世界大戦までのブラジル

a ) 1831年ペードロがブラジル帝王を退位

→ブラジル政界は保守党と自由党の２大政党

b ) ブラジルの産業革命

ア)1840年代：コーヒー・サトウキビ農場に蒸気機関導入

蒸気機関の導入は多くの革新を誘発

イ)1852年：電信の開設

ウ)1854年：リオとペドロポリス間に最初の鉄道開通

c ) 1889年デオドロ・ダ・フォンセッカが大統領に就任

→ 国名をブラジル合衆国に変更、政体は連邦制

d ) 1926年～1930年の大統領はワシントン・ルイス

→性格は頑固で節操だが比較的平穏な期間

e ) 1934年ゼツリオ・ヴァルガスが大統領に就任

ア)国家体制は全面的な独裁政治

イ)各州に執政官を配置、執政官が一般州政を統治

→よって自治権が廃止

f ) 1939年第２次世界大戦が開戦

ア)ヴァルガスは中立を維持

理由：ドイツとアメリカが重要な貿易相手

イ)1942年ドイツの攻撃により枢軸国(ドイツ)に宣戦布告

h ) 1945年のヴァルガス政権崩壊

ア)独裁政治だが反ファシズム戦争に軍隊派遣

→矛盾発生により国民の信用低下

イ)1945年独裁政治の崩壊により憲法改正を実施

→軍部の支持を喪失

# ２章戦後のブラジルの政治と経済

## １節：ポピュリズム型権威主義

a ) エウリコ・ガスパール・ドゥトラ将軍が大統領に就任

ア)1946年ブラジルは連邦共和国に変更

ⅰ)連邦、州、市が権限を所有→三権分立が規定

ⅱ)市議会の議員や州知事などは直接選挙により決定

イ)SALTE計画の実施

→保健、食糧、運輸交通、エネルギーを重点的に開発

b ) 1951年ヴァルガスが再び大統領に就任

ア)SALTE計画を続行

イ)新たな国家経済再整備計画を策定

財源： ⅰ)国立経済開発銀行による資金

ⅱ)世界銀行と米国輸出入銀行からの融資

c ) 1953年アイゼンハワーが米国大統領就任

ア)米国は反共政策を強化、ナショナリズムを警戒

イ)ヴァルガスの外国資本の敵視発言

↓

２つの理由から米国関係悪化

## ２節：軍事独裁政権時代

a ) 1964年4月9日革命最高司令部の名で軍政令1号が公布

ア)反対派の議員や知事の政治的権利をはく奪

イ)内容：大統領が憲法修正などの例外規定の行使可能

b ) 同年カステーロ・ブランコが大統領に就任

ア)左翼的なナショナリズムの拠点などを解散

→前政府要人は逮捕か外国大使館に亡命

イ)軍政令２号の公布

内容：大統領の間接選挙制の導入と既存政党の解散

ウ)軍政令３号の公布

内容：ⅰ)州知事、州副知事の間接選挙制の制定

ⅱ)連邦政府が州政府の介入権限を獲得

c ) 1974年エルネスト・ガイゼルが大統領に就任

ア)国家情報局の長官

→ジョアン・バチスタ・フィゲイレードを任命

イ)体制内野党のブラジル民主運動の５人

→軍政令５号により政治的権利をはく奪

ウ)民政移管を目標に憲法を修正

→大統領の任期を５年から６年に変更

# ３節：民主化への移行

a ) タンクレード・ネヴェスが大統領選挙で勝利

しかし、就任前に病気で死亡

→副大統領のジョゼ・サルネイが大統領に就任

b ) 1985年5月に憲法修正

ア)大統領の直接選挙が復活

イ)決戦投票の復活

ウ)非識字者にも選挙権付与

ジョゼ・サルネイ

c ) 1988年「市民の憲法」が制定

特色：ア)社会的マイノリティーの人権を広範囲に保障

イ)立法府の権限強化、軍の国防専念が規定

ウ)選挙権を18歳から16歳に変更

d ) 1989年にフェルナンド・コロル・デ・メロが大統領に就任

ア)最優先課題はインフレ抑制

イ)副大統領はイターマル・フランコ

e ) 1992年イターマル・フランコが大統領に昇格

ア)レアル計画を発表→理由：インフレを鎮静化

内容：ⅰ)一定の移行期間を設置

理由：国民に政策の意図を浸透

ⅱ)移行期間に段階的に米ドルからレアルを導入

f )フェルナンド・エンリケ・カルドーゾが大統領に就任

ア)憲法問題特別委員会を設置

イ)憲法を改正

ⅰ)大統領の任期が４年に変更

ⅱ)２期連続で大統領に就任可能

ウ)経済面では電力、石油化学系15社の民営化を計画

フェルナンド・エンリケ・カルドーゾ

# ３章２１世紀のブラジルの政治

## １節：ピンクタイドと労働者政権

a) 2003年ルイス・イナシオ・ダ・シルヴァが大統領に就任

ア) 貧困対策としてボルサ・ファミリアを発表

ｉ) 低所得家族に15~95レアルを支給

ⅱ) 受給対象者：児童の通学が条件

b) ルーラ政権はピンクタイドとして注目

→政権内容：概ね穏健な路線を選択

ルーラ大統領

c) 2000年代初期EUの統一通貨のユーロが誕生

ア) 中国などの発展途上国の経済が成長

→ルーラはこれに注目

ⅰ) 中国に鉄鉱石や大豆などを積極的に輸出

ⅱ) 結果ブラジルは貿易黒字

d) 2006年海底油田の発見で石油の輸入が不必要

e) サトウキビなどを燃料とする自動車の生産開始

↓

c)~e)によってボルサ・ファミリアなどが実現可能

## ２節：史上初の女性大統領

a) 2010年の大統領選挙でジルマ・ルセフが勝利

ア) 父親がブルガリア移民で移民２世

イ) ルーラ政権期には官房長官として従事

ウ) 軍事政権時代に反政府武装ゲリラとして地下活動を実施

エ) ブラジル初の女性大統領

b) 2013年公共交通機関の運賃値上げを実施

→ブラジル中で抗議デモが拡大

ア) 参加者の25%が15~29歳

イ) 84%が大学就学以上

ジルマ・ルセフ

c) ルセフのデモの対応

ア) 長年中断中の法案の審議や採決を実施

ⅰ) 低所得層の学生の公共交通機関の無料化

ⅱ) 海底油田の利益を保健医療や教育に優先的に充当

ⅲ) 国民の政治不信軽減のための国民投票を実施

e) ブラジル最大の汚職事件

ア) 国営石油会社ペトロブラスの汚職事件

イ) 大手ゼネコンや世界有数の食肉会社なども関与

ウ) 高速洗浄機(ラヴァ・ジャット)の会社の口座を利用

→ラヴァ・ジャット事件と呼称

# ３節：ピンクタイドの終焉

a) 2015年10月ルセフの弾劾準備開始

ア)元サンパウロ州知事などを中心に弾劾請願が実行

イ) 同年12月弾劾裁判開始の可否についての審議が開始

→結果ルセフは**職務停止**

b) 副大統領の**ミシェル・テメル**が大統領代行に就任

ア) サンパウロ州出身の法律家

イ) ルセフ政権期に３期連続で下院議長

→後に副大統領として従事

ウ) 就任後労働法の改正や福祉予算の削減を実施

c) テメルが正式に大統領に就任

ア) 汚職事件関与の疑い有

イ) 最高裁判所で有罪判決

→次の大統領選挙には出馬不可能

d) 2016年の統一地方選挙で労働者党は大敗

→ブラジルにおけるピンクタイドが終焉

e) セルジオ・モロ判事

ア) ルーラを有罪判決

↓

ブラジルの英雄として注目

ミシェル・テメル

# ４章近年のブラジルの政治と諸問題

## １節：ボルソナーロ政権

a) 2018年の大統領選挙でジャイール・ボルソナーロが勝利

ア) 下院議員時代→女性やマイノリティーに不適切発言

イ) 軍政期の強権政治を肯定

ウ) ブラジルのドナルド・トランプとして注目

b) ボルソナーロ政権

→多くの現役、退役軍人を閣僚として起用

c) ボルソナーロの政治の３本柱

ア) 経済改革

イ) 汚職撲滅

ウ) 治安回復

セルジオ・モロ

この３つの分野を権限の大きい閣僚に一任

ⅰ) 経済改革は経済学者のパウロ・ゲジス

ⅱ) 汚職撲滅はセルジオ・モロ

ⅲ) 治安回復は元軍人のフェルナンド・アゼベド

# ２節：アマゾン流域の火災とボルソナーロの対応

a) ボルソナーロは開発事業に積極的な姿勢

ア) アマゾンの森林を破壊

イ) アマゾンの火災も増加

ｉ) ブラジル政府は原因をNGOと主張

↓

世界中の酸素の20%がアマゾンで生成

→国際的な批判が増加

ウ) 批判対応のため消火活動に軍を派遣

エ) アマゾン森林火災の資金援助拒否

ⅰ) 約21億円の援助を拒否

ⅱ) 理由：内政干渉

b) 2020年ブラジル初の新型コロナウイルス感染者

ア) 「ただの風邪」と発言

→ブラジル政府は不適切な対応

ⅰ) 患者数世界第3位

ⅱ) 死者数世界第2位　(2024年4月)

↓

蔓延によりブラジルは不景気→国民の不満増加

# ３節：再選されたルーラ

a) 2022年大統領選挙が開催

ア) 立候補者は11人

ⅰ) 世論調査のルーラの支持率：48%

ⅱ) 世論調査のボルソナーロの支持率：34%

ⅲ) その他は1%未満

イ) 10月30日に決戦投票実施

ⅰ) 得票率が４割強のルーラ対ボルソナーロ

→結果：ルーラの得票率：50.9%

ボルソナーロの得票率：49.1%

b) ルーラ政権

ア) 約6年半ぶりの左派政権

イ) アマゾン熱帯雨林保護の強化

ｉ) アマゾンの森林破壊はゼロが目標

ウ) 国営企業の民営化を凍結

エ) 政令で先住民の土地での小規模な金の採掘禁止

c) 第３０回国連気候変動枠組み条約締約国会議(COP30)の内容

ア) 地球温暖化問題の解決策の提案

イ) 途上国の支援資金

d) 11月22日にCOP30が閉幕

ア) 合意内容

ⅰ) 途上国への支援資金を加速

ⅱ) 2035年までに少なくとも現状の３倍の支援

イ) 不合意内容

ⅰ) 化石燃料脱却のための策定

→ブラジルを含む80か国以上が賛同

↕

産油国や化石燃料への依存度が高い中国などは猛反発

日本や一部の途上国も反対

# 今後の展望

a) 左派のルーラ政権

ア) 貧困格差是正のためのボルサ・ファミリア

ⅰ) 一定収入以下の家族に補助金を支給

ⅱ) 条件：子供が学校に通学

イ) 絶対的貧困率が70%改善

→ルーラは貧しい人々から高い支持率を獲得

b) 右派のボルソナーロ政権

ア) 鉱山開発に積極的な姿勢

イ) 新型コロナウイルスもただの風邪としロックダウン反対

ウ) アマゾン川流域で急激な開発事業

→自然破壊が進行

c) 右派の考え方に賛成

ア) 左派政権は正当な努力の評価無

イ) 左派は国家が最低限の生活を保障

→企業の成長の抑制

ボルソナーロ

過激な発言などは反対だが右派の考え方の方がブラジルが発展